QND Plus Ver.9.6i 正誤表

2010年11月22日　クオリティソフト株式会社

マニュアルの内容に誤り、追記事項があります。下記、正誤対象表をご確認ください。

■ 導入・メンテナンス編

ページ	見出し	誤		正
New24	ホストの対応OS 表内「Windows XP Professional x64 Edition」のSP	SP2/SP3	→	SP2
New25	ホストの対応OS	＜右の記述を追記＞	→	Mac OS 8.6～Mac OS 9.2（Classic環境）には、CarbonLib V1.6以降がインストールされている必要があります。 Mac OS X以降では、標準でインストールされています。
28 (*)	◆管理対象PC:5000クライアントの場合 各コンソールの使用メモリ	1MB以上	→	1GB以上
New32	1-1..NET Framework 2.0のインストール 手順2の①	① SQL ServerをインストールするPCに、管理者アカウントでログオンします。	→	① .NET Framework 2.0をインストールするPCに、管理者アカウントでログオンします。
New37	MEMO「インストール後の確認」	・FileServer.exe	→	＜左の記述を削除＞
37	MEMO「インストール後の確認」	＜右の記述を追記＞	→	ViperManageServer.exeは、Viper管理サーバをインストールした場合のみ存在します。
New44	ログインユーザとQNDコンソール	＜右の記述を追記＞	→	同一ホストに対して、複数のQNDコンソールから同時に操作を行うことはできません。 他のQNDコンソールによってアクセスされているホストは、「ホストの状態」の［現在の状態］に“ロックされています。”と表示されます。
New114	4-4.サイレントインストール	＜右の記述を追記＞	→	既にQPオプションがインストールされているホストに対して、作成したクライアントインストーラを使用してサイレントインストールを実行すると、QPオプションのサービスが起動しなくなります。
New115	ホスト側の操作 手順1の②	＊ インストーラのログファイルのパスは、実在しており、ユーザが書き込み可能なディレクトリを指定してください。 また、ログファイル名は、”セットアップファイル名”.logとしてください。	→	＊ インストーラのログファイルのパスは、実在しており、ユーザが書き込み可能なディレクトリを指定してください。 また、ログファイル名は、”セットアップファイル名”.logとし、必ずこの引数を指定してください。

ページ	見出し	誤		正
New146	ログインアカウントについて	ただし、複数接続が可能なコンソールは、QNDコンソールのみです。QIVコンソール（QIV設定コンソール）、RCコンソール、NetSkipperコンソール、Viperコンソールからは、一度に1ユーザしかログインできません。	→	ただし、管理者権限のユーザで複数接続が可能なコンソールは、QNDコンソールのみです。QIVコンソール（QIV設定コンソール）、RCコンソール、NetSkipperコンソール、Viperコンソールからは、一度に1ユーザしかログインできません。 アシスタント権限のユーザであれば、複数接続が可能です。（Viperコンソール以外）
New152	バージョンアップ 手順10のあと	＜右の手順を追記＞	→	手順11 ① ［はい(Y)］ボタンをクリックします。 データがコンバートされます。コンバートが完了すると、実行完了のメッセージが表示されます。 ② ［OK］ボタンをクリックします。
New153	バージョンアップ 手順15	① マスターサーバのバックアップ（P.182）でバックアップしておいたファイルのうち、次の2ファイルを元の場所にコピーします。 ・QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv ・QNDPlus¥etc¥multicast.ini	→	① マスターサーバのバックアップ（P.182）でバックアップしておいたファイルのうち、次のファイルを元の場所にコピーします。 ・QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv
New154	バージョンアップ実行後の確認 表内	・FileServer.exe	→	＜左の記述を削除＞
154	バージョンアップ実行後の確認	＜右の記述を追記＞	→	ViperManageServer.exeは、Viper管理サーバをインストールした場合のみ存在します。
New217	◆SUのインストール	＜右の記述を追記＞	→	SUSU機能とは、SwitchUserのインストールを行うためのSwitchUser機能のことです。OSがWindows 2000/Windows XP/Windows Server 2003の場合、対象となるホストに管理者権限以外のユーザでログオンしていても、QNDサーバ管理者情報に登録されている管理者アカウントに切り替えて、インストールを行います。

(*) 製本マニュアルでの誤り、追記事項となります。PDFマニュアルでは修正されています。

■ 運用編

ページ	見出し	正
New241	1-1. 運用の流れ	次の内容を追記 MEMO 許可ホスト一覧への登録 QP オプションがインストールされたホストは、「未知のホスト一覧」には表示されなくなります。(「全てのホスト」に表示されます) 他のセグメントで接続した際に通信を許可する場合は、該当の「[(セグメント名)] の許可されたホスト一覧」へホストを登録してください。 全セグメントで通信を許可する場合は、「全セグメントで許可されたホスト一覧」へホストを登録してください。 参照 『リファレンス』IV 2-5. セグメント一覧 [(セグメント名)] の許可されたホスト一覧、IV 2-2. メイン 全セグメントで許可されたホスト一覧

ページ	見出し	誤		正
New326	MEMO「リモートコントロールの開始時」 表内「名前」の説明	MassageDisplayTime	→	MessageDisplayTime
New328	MEMO「リモートコントロールの開始時」 表内「名前」の説明	MassageDisplayTime	→	MessageDisplayTime
366 (*)	VI部の2章タイトル	QNDサーバと接続できないホストの情報を収集	→	QNDサーバと接続できないホストの情報を収集する
New382	2-4. ネットワーク接続ができない場合	＜右の記述を追記＞	→	QNDコンソールの「サーバ固有の設定」の［インベントリ］で、ファイルパスを指定して取り込むこともできます。 参照 『リファレンス』I 10-16. サーバ固有の設定 インベントリ
New440	任意設定インベントリの情報をCSV形式で作成する	＜右の記述を追記＞	→	マッチングのキーとする項目は、列の先頭の項目である必要があります。
New469	データ集計/CSV出力のタイミングを設定する 手順2の① 表内「月に1回」の記述方法	em dd@hh:mm	→	em [dd]@hh:mm
New469	データ集計/CSV出力のタイミングを設定する 手順2の① 表内「月に1回」の例	em 10@10:00 em 99@10:00	→	em [10]@10:00 em [99]@10:00

(*) 製本マニュアルでの誤り、追記事項となります。PDFマニュアルでは修正されています。

■ リファレンス

ページ	見出し	誤		正
New107	インベントリ 表内「ソフトウェア一覧を自動更新する」の説明	QIVでCSVのスケジュール出力を行っている場合、チェックを外すと最新の情報によるCSV出力が行えないため、注意が必要。 その場合、サーバタスクをスケジュール実行して、CSV出力が行われる直前にソフトウェア一覧が更新されるようにしておくと、最新の情報で出力される	→	チェックを外した場合、以下の内容が最新の情報にならないため、手動やサーバタスクでの更新が必要 ・QNDコンソールの「全ソフトウェア一覧」の情報 ・QNDコンソールからのCSV出力 ・収集したソフトウェアインベントリを条件に設定したフィルタの更新

■ リファレンス付録

ページ	見出し	誤		正
New67	22-1. メニュー項目	＜表全体を修正＞	→	参照 『追補マニュアル』
New75	23-4. クライアントプログラムリモートインストール時のエラー一覧 表内「共有ディレクトリの作成に失敗」の原因と対処方法	[原因] 対象ホストが、QNDサーバと別ドメインにいる [対処方法] 対象ホストと同一ドメインに、スレーブサーバを設置する	→	＜左の記述を削除＞
New75	23-4. クライアントプログラムリモートインストール時のエラー一覧 表内	＜右の記述を追記＞	→	[エラー内容] 「インストール先のホストに接続できませんでした」 [原因] ホストのWindowsファイアウォールが有効でQNDのクライアントプログラムが例外登録されていないため、通信がブロックされている [対処方法] ホストのWindowsファイアウォールの設定を変更する 参照 『導入編』付録 3 Windows ファイアウォールの設定
New79	25 ログの確認方法 表内「%windir%」のログファイル名	＜右の記述を追記＞	→	QND960SVRConverter %d-%02d-%02d %02d-%02d-%02d.log
New79	25 ログの確認方法 表内「%windir%」の説明	＜右の記述を追記＞	→	バージョンアップ時のコンバータの動作ログ 最大サイズ5MB×ログ個数11個（履歴が10個）